広報 社協さがみはら みんないいひと タウンニュース
発行 社会福祉法人
相模原市社会福祉協議会
中央区だより 第33号
〒252-0236 相模原市中央区富士見6丁目1番20号 市立あじさい会館内
☎042(730)3888 FAX042(759)4382
✉info@sagamiharashishakyo.or.jp HP http://www.sagamiharashishakyo.or.jp/

地域の「困りごと」を地域の皆さんと一緒に解決

～コミュニティソーシャルワーカーの取組から～

市社協では、市内22地区にコミュニティソーシャルワーカー（以下「CSW」）を配置し、家族の介護やひきこもり、生活困窮など「困りごと」を抱えている方々に寄り添い、公的なサービスや住民による支えあい活動につなげる支援など、「困りごと」を地域の支えあい活動で支援する仕組みづくりを進めています。

▶中央区の職員（CSW）

自分が亡き後、息子の生活が・・・

令和元年度の相談件数は、297件。地域の身近な相談役である民生委員・児童委員をはじめ高齢者支援センターなど専門相談機関等から相談が寄せられました。

民生委員・児童委員が80代の母親からの相談を受け、CSWにお寄せいただいた「困りごと」は、「自分が亡き後、息子の生活が心配」という相談。世帯の収入は、母親の年金のみ。50代の息子には、疾病があり、食事等の日常生活や金銭管理等を母親が行っている、いわゆる「8050問題」を抱える世帯でした。このような相談が多く寄せられますが、母親と息子それぞれの「困りごと」に対応する専門相談機関があっても、世帯として抱える問題が多岐にわたるため、高齢・障がい・児童など、種別ごとの支援では、対応が困難な場合もあります。

また、自ら「困りごと」を発信できない、「困りごと」を誰にも相談できずに限界まで抱えてしまうなど、必要なサービスや支援に結びつかず、ひきこもりや生活困窮の状態に陥ってしまう世帯もあります。

CSWの取組を通じ、地域の中には、多様化・複雑化した「困りごと」や「生きづらさ」を抱え、更に「孤立・孤独」の状態に陥ってしまう世帯が潜在化していることが把握されました。

「困りごと」をキャッチして地域につなぐ

CSWは、地域の中の声なき声を「困りごと」として受け止め、アウトリーチ（「困りごと」を抱える世帯に出向き、働きかけること）により、御本人に寄り添いながら「困りごと」を整理し、必要なサービスや支援につなぎます。そのためには、支援を必要とする方を早期に把握することが最も重要となります。もしも皆さんが身近な地域で困っている方に気付いたら、民生委員・児童委員やお住いの高齢者支援センター、CSW等につないでください。

把握された「困りごと」を基に、人と人とのつながりを育むための取組を地域と社会福祉施設、専門相談機関等との連携・協働により進め、支えあい活動による地域の輪を広げていきます。

CSWの役割や5年間の取組を「実践報告集」にまとめましたので、御希望の方、また、CSWに関する問合せは、福祉推進課地域支援係☎042・704・6275まで。

福祉コミュニティ形成事業

問福祉推進課地域支援係 ☎042-704-6275

星が丘

ちょっと手伝い隊

お互い様の気持ちを忘れずに活動！

隊員の星野重幸さんは、退職後に高齢者サロン等のボランティア活動を行う中で、参加者からの「粗大ゴミが出せない」「ラジオの電池交換ができない」等の困りごとの声を聞き、地域福祉推進会議に参加し、団体の仕組みづくりを行ったことをきっかけに活動を始めました。

星野さんは、「一緒に活動することで仲間が増えることや、困っている人のお宅に行って一緒に話し、喜んでもらえることが一番のやりがいになっています。活動する人も困っている人もお互い様。お互い様の気持ちを忘れずに御縁を大切にこれからも活動していきたいです。」と語ってくれました。

ちょっと手伝い隊
家具の転倒防止用具の設置や草取り、ビンのふた開け等の高齢者世帯のちょっとした困りごとを住民同士が互いに助け合う活動をしています。

光が丘

ひかりサポートセンター

好きなことを仲間と気楽に楽しく!

活動に参加する兵庫康博さんは、民生委員・児童委員になったことを機に障がい児の送迎ボランティアを始めました。現在は、センターでボランティアの受付を行っています。

兵庫さんは、物作りが得意。好きなことや趣味を生かして人に喜んでもらえることが一番うれしいそうです。「活動の中で様々な地域の方と出会えることも楽しみの一つ。子どもたちの成長に元気をもらい、ボランティアの楽しさに気づきました。”ボランティア“と構えるのではなく、好きなことを好きな仲間と一緒に気楽に楽しく行うことが一番！」と語ってくれました。

ひかりサポートセンター
「ちょっとした困りごとを近隣同士で助け合える地域をつくりたい。」と、高齢者や障がいのある方等から地域の困りごとの相談を受け、お手伝いをしています。

大野北

はやぶさカフェ 大野北

仲間や利用者から元気をもらえる！

活動に参加する石田公子さんは、お母様の病気をきっかけに相模原市に転居されてきました。お母様が亡くなられた後、喪失感を感じていた時に、マンションの掲示板に張り出された自治会の広報を見て、地域福祉の勉強がしたかったことから活動に参加するようになりました。

石田さんは、「何かの役に立ちたいという思いから活動に参加しましたが、逆に仲間や利用者さんに元気づけられています。カフェに来る人をみんなが家族のように気にかけ、姿が見えないとみんなで心配しています。大変と感じた企画メニューの考案も、続けていくうちに楽しみに変わり、活動の雰囲気もにぎやかです。」と語ってくれました。

はやぶさカフェ　大野北（コロナ禍により、現在、活動を休止しています。）
2か所で毎月1回ほっとできる「集いの場」を開催しています。お楽しみ企画への参加や、ちょっとした悩みを話せるなど、元気になれる場所として活用されています。

～「みんなで『気軽に』、『楽しく』!!」～

「地区社会福祉協議会」が中心となって、地域の福祉課題（困りごと）を発見・共有、解決に向けた仕組みづくりを検討し、実践する「福祉コミュニティ形成事業」。「交流の場づくり」、「見守り活動」、「困りごと相談窓口」など、地区ごとに取組は、様々です。今回は、活動を支える地域の皆さんの声を取りあげ、一緒に活動していただける方を大募集！

コロナ禍で現在活動をお休みしている地区もありますが、再開に向けて、「これならできる！みんなでできる！」是非一緒に活動しませんか。

田　名

田名ボランティアセンター

活動後にいただく声が次への活力！

運営委員、コーディネーター、サポーターとして活動している高野仁さんは、定年退職後、第2の職場も終わり、何かやることはないかと考えていたときに民生委員・児童委員の仲間からボランティアセンターを紹介され、サポーター登録をしました。

高野さんは、「ボランティアセンターに入って最初の活動で高齢者施設のカフェ手伝いをした後、入所者から『おいしかった。ごちそうさま。また来てね。』の声をかけられて、“またやろう”と思いました。草取りの作業で『きれいになってさっぱりした。ありがとう。』の言葉が次への活力です。」と語ってくれました。

田名ボランティアセンター
ちょっとした困りごとは、住民同士の支え合いで解決できるよう相談窓口を設置し、サポーターがお手伝いします。

上　溝

ぶらっと上溝 こどもクッキング

食を通じた子どもとのやりとりにやりがい

ボランティアの迫加津旺さんは、上溝地区社協より、上溝地区で子ども食堂を行いたいので、協力して欲しいと頼まれたことから活動に参加することになりました。迫さんは、これまでも毎月1回「男の料理教室」を行い、また、公民館から高齢者や子どもの料理教室の開催を依頼されて実施してきていた経緯もあり、地区社協での活動を始めました。

迫さんは、「人は、食が満たされると”ハッピー”な気持ちになる。特に子どもは、喜怒哀楽がストレートなので『美味しい!!』と食べてくれるととてもやりがいを感じる。また、『次はあれがやりたい!!』、『これが食べたい!!』と、子どもたちが期待し、喜んでくれている様子を見るとうれしい。」と語ってくれました。

ぶらっと上溝 こどもクッキング（コロナ禍により、現在、活動を休止しています。）
地域の皆さんが交流できる場所ぶらっと上溝で、こどもクッキング（体験型子ども食堂）の活動をしています。

社協は、皆さんからの寄付金・賛助会費・共同募金に支えられています。
紙面や記事についての御意見を大募集！本紙は、市社協・地区社協各窓口でも配布中

市社協ホームページ 相模原市社協 検索